

喜島驅除に關する連絡會要録

日時 三月廿三日(木) 午後五時

場所 日本食堂

出席者(順不同敬稱略)

- 多田 禮吉 (全科技聯理事長)
- 岩谷、小松、有本、池、神保各參技官 (技術院)
- 齋田 貞治郎 (東京帝大農學部)
- 佐々木 喬 (同)
- 彌木 外岐雄 (同)
- 武居 三吉 (京都帝大農學部)
- 松村 松年 (日大農學部)
- 上遠 章 (農商省農政局農産課)
- 木下 周太 (同 農事試驗場)
- 湯淺 啓温 (同)
- 佐藤 庄太郎 (同)
- 長戸 一雄 (全科技聯第五部會幹事)
- 山下 清吉 (同 常務理事)

東京市芝區新橋三丁目一番地
 法人 全日本科學技術團體聯合會

電話銀座(5)四〇五〇番

0895

○連基長挨拶

先般食糧増産に關する技術協力連絡會を開催して關係各専門研究者の意見の發表を見たが同問題に關聯して營養、運搬、蟲害等種々の解決すべき課題が提案され今日は其内害蟲驅除對策に關する關係専門家の連絡であるが今後とも回を重ねて本問の進展解決を圖ることが急務である。

○池氏、技術院に於ても食糧問題對策の方針として増産に關する部面に於て此れに關する各種課題を取扱つて居る従つて今日の連絡會開催を要請して早急に各専門研究者の意見を求めると共に技術面における隘路の打開に努力する考へである。

○上遠氏、農商省に於ては食糧増産について日夜頭を悩ましてゐるが六連絡會において種々の意見が聞けることには幸である。現在内地における食糧増産のための害蟲方面の主要を申上げると、稻、麥、大豆、甘蔗等に對する各種病蟲害驅除につき夫々助成金を支出して居る。稻については蝗蟲驅除（誘蛾灯）二〇万町歩、幼蟲による被害輕減一〇〇万町歩、をやつてゐる。ドロオイ蟲に對して一二万町歩藥劑撒布をしてゐるがその他にも四万町歩藥劑撒布をしてゐる。大豆についてはヒメコガネのために一万町歩丈藥劑撒布をしてゐる。馬鈴

0896

署については四、五万町歩に施して疫病、テントウ蟲ダマシの駆除に力を入れてをる。

又、蟲害豫防に勝しては全國の試験所に監察員を配置して指導に當らしめ氣象その他の状況によつて適切なる處置をとらしてあるが藥劑や噴霧器の購入配給實施にも力を入れてをる。

○ 米の害蟲驅除法如何

松村氏「稻の害蟲たるウンカの害に對しては如何なる處置を取られてゐるか、又、如何なる種類のウンカが害してゐるか。

上遠氏「驅除の方は極力督勵してをるが助成金は出してをらぬ。又、九大の方に研究を委託して調査してをるが、色ウンカ、ヒメトビウンカなどがあり、それらの區別は農事試験場で示し、證明を關いてゐる。

松村氏「ウンカの外にフタテヨコ蠅など色々のものがある筈である。

湯淺氏「從來の調査と符號してゐるが、稲作についてはヒメトビウンカなどあるが疑問とするのは今迄に發表されたものが眞に害蟲かどうかであつて、これも九大へ委託して研究中である。

松村氏「獨乙ではフタテヨコ蠅を甚しく恐れてゐるがそれは燕麥に對してである。とにかく害蟲驅除の前に何が害蟲であるかを調査究明

すべきである。

湯淺氏「害蟲驅除には色々の問題があり、研究の傍ら實地指導もやつてゐるが、自分は種々の感想を抱いてをる。

昭和十四年來の調査によればウンカは害蟲としての被害は少く、従つて事實上余り重要性はないと考へられる。

蟲害豫防に就ての當面の問題は藥劑、器具の不足、勞力の不足が全般的事であることである。故に代用資材、代用藥劑の確得に向つて研究をすゝめてゐるわけである。尙又、現有勞力の効率を高めることが不可缺であつて、その意味での自分の體驗を申上げたい。

結論的には害蟲の發生豫察に重點を置くのであつて、農村の末端にまで害蟲驅除に及ぶる根本的理由を徹底的にのみとますべきである。

(實地指導の~~参考~~ 勿論、國としてもこれらの事業は着手後已に四年目になつておて業績も大いに興つてをるが、從來以上にこの面に力點を置かれ度い。又、資材勞力の不足につき、之らを最も有効に使ふた

めに早期發見豫察に力を入れるべきである。例之、藥劑撒布にしても

三回施すものを一回でもつて有効ならしめるといつた具合にするのである。稻のハグリ蠅にしても今は三回だがそれを二回、一回にすべき

である。

その意味で發生豫察の事業も大いに充實して目前と將來とに備へる必要を痛感する。(藥劑の利用、使用時期の設定等につき從來の資料を整理して實用に供すること。研究員調査員の充實の急務なること) 現在は下級技術員が害蟲驅除の卑近なる原理すら諒解してをらぬからこの方面の智識向上を圖り、末技よりもその必要性や原理を彼らに知らすことが先決である。以上が實地指導によつて得た体験であるが行政的にも啓蒙運動の要がある。下級技術員の再教育、素質向上、卑近な實用設備の設置。

松村氏「害蟲驅除といつて藥劑を用ふのは舊式である。寧ろ豫察して驅除劑を不要ならしむべきである。元來、害蟲の知識を與へることを忘れたのが間違つてゐる。洵に今日の狀態は害蟲發生ヶ所といつた觀がある。即ち素人連が發生してゐるのである。(東京山手然り、滿洲然り、北海道亦然りである)かの貝學蟲のために北海道では林檎が出來なくなつたではないか。それが青森縣では藥劑でなくて手でもつてその蟲を根絶したから成功してゐるのである。要するに火事と同じでボヤの中に手でもとらすべきである。今日男子不足といふなら女子を指導してこれに當らしめたらよい。これが増産の近道である。(害蟲の豫防とその實行、行政手段の急施の要)又、藥劑を使用する時に益蟲まで殺すから考へものである。

上遠氏一門除に關しては現在豫防係を設けて實施してゐるが、時期の點は未定である。とにかく、害蟲驅除の理論を農家に徹底させることが先決である。園藝方面は御承知の如く昔からやつてをり、相當研究せられてゐるが米麥方面はその知識が不足してゐる。(即ち園藝にあつては採算問題が鋭敏深刻に來るからである)

佐々木氏一門米麥方面で驅除研究等が振はなかつたのは、結局歴史が古く自体の繁殖力が強いためと、それほど徹底して驅除を行はずとも全体の收穫に重大な結果を起さなかつたからである。園藝の方はそれが逆であるのと、一つには外來のものが多いため虚弱であるといふ點があつたから勢ひ(害蟲による收穫皆無の現象)害蟲驅除に力が入つたのである。

湯淺氏一門感である、その實例として稻のカラ蟻があげられるが之による被害は〇一八〇パーセントまである。在來品種は非常に強いが、近來の育成品種は弱い。旭の系統、陸羽百三十二號がかなり弱い部類に入り、被害が大きい、そのために昭和十年頃からカラ蟻のことが八釜しくなつた。蝗蟲に強いことは以前から解つてゐたが。カラ蟻の被害に對しては無關心であつたのである。

松村氏一門も全く同感である。害蟲には長い間に寄生蟲が生ずるため

はないか、支那では良質の米が害蟲の被害が大きい。

湯淺氏「北支では大根境に弱い。大根のバイラス病に弱い。三千年四千年に亘る淘汰をうけて免疫性になつた點もあるがパージンソイルにあつてはそうはゆかぬ。

佐々木氏「播種に關しては蟲害に關する試験済みの品種をつくる様にした。南方の棉花についても害蟲の問題は大切であつて、之に對する意見上申も出してある。

又、害蟲の第二次、第三次の基地を明かにさしておくことが必要である（早期豫察の見地、例、エンボアスカ）。棉の輪裁に必要なことであるが、産兒的基地についても調査して意見具申した。單でもそれを採用した。とくに南方にあつては作物の組合せ上この點が大切であるからである。

松村氏「私もその經驗を持つてをる。エンボアスカは歐洲では害がないが、他所に於ては大いに害をなしてゐる。（例、臺灣の桃の木等）或は鳥との關係もあらう。（フアブシアス）日本の綿蟲も元來は外國傳來のもので、日本に來ると害が大きいのである。勿論やがては免疫性になるだらうが、目さきの事實としてはこの害を問題としないわけにゆかぬ。

楠木氏「作物に關する衛生的見地は御話の通りであつて害蟲驅除の防疫的處置が第一と考へる。害蟲専門家はその方面の研究をされてをわけてある。衛生的な見地に就ては湯淺氏、上遠氏より御話があつた通りである。

先づ發生を豫防する（發生豫察）方に力を入れて害蟲防除技術の向上をはかることが、今日の日本にとつて最も大切なことである。即ち發生の豫察を行政面に移してその實際化を促進すべきである。現に、宇都宮高等農林學校では、その學生を動員して發生豫察に當らしめ大きな効果をあげたのであるが、縣當局に於てもこれを獎勵すべく本年度から縣費で豫算をとつたと聞いてゐる。

全科技聯としてもこの際、農商省や文部省に働きかけてその指令によつて學生生徒を動員し害蟲の早期發見に活動せしむべきである。とかく子供の眼は敏感であるからよい指導者をつけてやれば大いに能率をあげるものと考へる。又、農藥の必要なことは言ふまでもないが自分としては物理的驅除の方を研究して農商省の方へ上申しておいたが、幸本年度からそれが實施される筈になつてゐる。

前述の動員には足代を出してやるのは勿論のこと、早期發見の功をあげたものには個人表彰をしてやることも良策である。

上遠氏「農商省の委囑によつて本年度から實際化するものと考へる。文部省に對しては早期發見隊の出勤を交渉中である。

木下氏「縣によつては懸賞金を出してをる。

佐藤氏「今日までは害蟲防除が重視されなかつた憾がある。従つて農用藥劑も、とかく輕視されて來たが自分は之は肥料と同じウエイトに置くべきだと考へてをる。この時局下、代用藥劑の増産に關する研究も行はれてをるが昆蟲學の面からの措置も重視されつつあるのである。皆さんの御話とは矛盾する點もあらうが、藥劑（毒物にあらず）を用ひ物理的作用を加味した方法も積極的に行はねばなるまい。農用藥劑の研究面が極めて廣いことも感したが、研するに、農用藥劑なるものを農商省に考へ、特に今後は豫防を加味した藥劑の研究を進めて行くべきものと考へる。（機械的、物理的な方法の研究）

松村氏「この種の連絡會をもつと頻りに行ふべきである。（賛成者多し）
齋田氏「タバコの灰殻を回收する案も新聞にのつてゐた様であるが、

上遠氏「現にやつてゐる（横濱）、滲出液で活用するのである、しかるにこれに關連して、かつて朝日新聞に出鱈目を記事が乗つたことがある。つて大いに困惑してゐる。

湯淺氏「菅田先生あたりから反駁論を出す必要がありませんね。あんな非

科學的な記事が時々世に出るのには困つたものである。

例へばポインラ蟲を殺すのには〇、〇〇五ものニコチンを要するのであるから實際問題とならぬことはわかりきつてをるのにこんな非實際的の夢物語が新聞にのるのである。

藪氏「おかみの商賣の弊害に就て。

専賣局の疎虞。テキシン、エキガの答申とその後の経過不明。滿洲タバコ會社ではウマクいつてをるが内地は未着手。知行合一の缺如。學生動員には高等農林を活用し農試場も活用し得る。普通の農林學がでも指導出來ぬことはない。

0904